

9 がつひかりごう

平成 30 年 9 月 1 日 輝 保 育 園

連日の猛暑の中、水遊び・プール遊びで夏を満喫しました。保育士がプールの準備をしていると 1、2 才児の子ども達も率先して服を脱ぎ、着脱がスムーズになった夏でした。又、幼児室の子ども達は、上手く顔つげが出来ない時に、皆が「ガンバレー！」と声をかけてくれ、仲間に勇気もらって努力した夏です。自信がついて一回り大きくなった子ども達。仲間意識や挑戦意欲を、運動会へと繋げていきます。

【【 防災の日 】】

9 月 1 日は防災の日です。

関東大震災が発生した日にちなみ「防災の日」と制定されています。

この機会に、避難所、家族間の連絡方法、避難道具等、確かめておきましょう。

★ 秋に鳴く虫たち ★

涼しくなってくると、聞こえてくるのが虫の声です。

秋に鳴く虫は、羽をこすり合わせてきれいな音をだします。

今年の夏は猛暑で、戸外で虫取りも出来ませんでした。

涼しい朝晩に、お家の方と虫の鳴き声を聞きに行くのも楽しいでしょう。



= 9 月の行事予定 =

- 6 日 (木) 避難訓練
- 20 日 (木) 身体測定、お誕生会
- 21 日 (金) 紅葉園慰問 (4、5 才児のみ)



= ナース・レポート =

【 風邪に抗菌薬処方 33% が「良い医師」と誤解 】

抗菌薬 (抗生物質) は、ウイルスが原因の風邪に効果がないにもかかわらず、一般の人の 3 人に 1 人が「処方するのは良い医師」と思っていることが、国立国際医療研究センターによる意識調査で分かった。

こうした患者の意向に沿って処方する医師が 6 割に上るという別の調査もあり、医師、患者の双方が抗菌薬の安易な使用を助長している実態が浮かび上がった。

抗菌薬は細菌の増殖を抑える働きを持つが、乱用すると、かえって薬が効かない耐性菌の出現につながる。

耐性菌の増加は世界的な問題で、鹿児島大病院でも今月、耐性菌に感染した患者の死亡例が明らかになった。

厚生労働省は 2 年前、抗菌薬の使用料を減らす行動計画をまとめ、風邪の治療では、できるだけ使わないように求めている。

2018/8/17 読売新聞より抜粋

抗菌剤の多用は、人の体内に元々備わっている細菌 (腸内細菌など) も攻撃し、保たれていたバランスを崩すリスクもあります。

薬は適切に使わないと、有害となり得るものです。

日々、規則正しい生活、バランスのとれた食生活を心掛け、薬に頼らない身体作りを目指しましょう。

《《《 お願い 》》》

1. クリアケースの中と、お便り帳を毎日確認してください。
2. 投薬依頼がある場合は、必ず職員に手渡しをお願いします。
3. 持ち物や衣類には名前の記入をお願いします。名前が薄くなっていないか、もう一度確認して下さい。
4. 夜更かしをさせず、早寝・早起をし、しっかり朝食を摂りましょう。
5. 毎日入浴させ、清潔にしましょう。

☆☆ 社会ルール ☆☆

～ 手本となる大人の姿 ③ ～

子どもたちの規範意識を高めるために大人がやるべきこと

③ 人を批判することを控え、尊重する

日頃から、家庭や保育園が「ほめる」、「認める」、「尊重する」環境にあれば、子どもの自尊感情や規範意識が高くなり、ものの見方や考え方が肯定的になります。

逆に、否定的な言動を見聞きする環境にあれば、自尊感情や規範意識も低くなります。

思いやりの心を育むためにも、人を批判することをできるだけ控え、尊重したり、大切にしたりしましょう。

また、保育園や地域で、自分の子どもが社会ルールやモラルに反する言動をした時、叱られたり、注意されたりしたら、親はそれを真摯に受け止め、ありがたく思うくらいの気持ちがあるといいですね。

⑤ 地域の子どもに声をかける、教える

子どもを育むにあたり地域の教育力も必要です。

子どもたちが、社会ルールやモラル上、良くないことをしていれば、「やめようね」、「してはいけないよ」などと声をかけたり、教えたりすることは大切なことです。

当然、危険な場合は、「叱る」や「注意する」も躊躇なく行いましょう。



「教育力向上福岡県民運動 ホームページ」より抜粋

こ ども の よ う す

たんぽぽぐみ 0 才児



今年の夏は暑く、プール遊びがいつも以上に気持ちよく感じました。0 才児のお友だちも体調や天候を考慮し、プール遊びが出来る時は存分に楽しみました。プールに入れる日、保育士がプールの準備をしていると、窓の近くに来て様子を見ています。プール遊びができることへの期待が高まっています。「お着替えしようか」の声掛けに保育士の傍に来て、着ている洋服を引っ張って脱ごうとし、楽しみな事が伝わってきます。外へ行くと「じょうろ」等の玩具を手遊びや、自らプールに入ろうと両手を淵に付き片足を上げる子等、それぞれが楽しみを見つけています。プールから上がる時間、みんな「まだ遊びたい」となかなか終わってくれません。プール遊びが楽しくて仕方ないようです。来年はもっと大きなプールに挑戦です。楽しみです。

たんぽぽぐみ 1 才児



プール前後の着替えを自分でする子が増えてきました。2 才を過ぎた子たちは、ズボンを一人で穿く事が出来るようになり、シャツも少し手伝うと自分着ることが出来るようになりました。1 才半前後の子たちの中でも、自分でしたいという思いが強まり、「ジブンデ」と言い、大人の手を借りずに一人でやろうとする子も出てきました。この時期が、身辺自立の獲得、上達のチャンスです。時間はかかりますが、見守ったり、さり気なく手伝ったりする事で、自分で出来たという自信に繋がります。身辺自立へと繋がります。その反面、甘えて「手伝って」と言う事もあります。その時は、思いを受け止め、一緒にするようにしています。家庭でも、自分でしたいという思いが出てきたら、見守ったり、さり気なく手伝い、出来た時に褒めて、一緒に喜んだりされてみてください。

すみれぐみ 2 才児



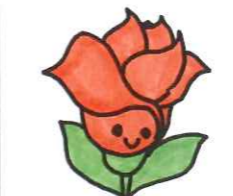
8 月もプール遊びを楽しみました。「先生、見てて！」と顔を水につけたり、友だちと水のかけあいをし、楽しい笑い声が響いていました。またひとつ、出来るが増え子ども達も自信になったと思います。先日から、すみれ組さんのお部屋に「セミ」や「かえる」などの虫たちがいました。虫が大好きな子ども達は「これ何？」と虫かごをのぞき、目を輝かせています。友だちと顔をくっつけあい虫が動くたびに「あつ！動いた！」と興奮していました。ある男の子は、図鑑を開き「先生、これと一緒？」と調べ始め、虫かごと図鑑を交互に見比べます。色や形が同じかを観察していました。暑い日が続きますが、今の時期にしか見ることができない虫や草花に触れ、子ども達と一緒に様々な発見や驚きを共有しながら今月も楽しんでいきます。

ちゅうりっぷぐみ 3 才児



3 才児期は、幼児期後期への心身共に大きく飛躍する土台作りの 1 年であり、2 才児クラスまでに、「自立」に向けて身に付けてきたものを、生活習慣として、家庭でも保育園でもできるように、確かな生活の力にしていく大切な時期です。この 2 か月間、集中的に取り組んできた衣服の着脱。ほとんどの子が前後の見極め方のポイントを掴めるようになりました。又、登園時、「行ってきます」の挨拶をして、玄関からお部屋まで 1 人で歩いて行けるようになってきました。お箸を上手に持てるようになった子もいます。日々の生活の中に、たくさんの「できた！」が溢れています。今後も、子ども達の生活習慣の確立に向け、ご家庭と園の双方で、子ども達の頑張りを応援していきましょう。

ばらぐみ 4 才児



暑い日が続く、戸外遊びができずにいます。計画していた蟬とりにも行けず残念でしたが、そこは虫好きの子ども達。テラスにいる虫を瞬時に見つけ「先生！虫がいる！」、「捕まえてくる！」と虫かごを取り、張り切って出ていきます。虫を捕まえると、図鑑を開いてみんなでのぞき込み「これじゃない？」、「でも、ここが違うよ」など意見を言い合いながら、虫の名前を調べ始めます。「虫の名前は？」という自らの疑問が発点となり、知識になる面白さや喜びを味わっています。疑問を抱くことから知的発達が始まり、この時期の知的好奇心は、小学校以降の教科学習に繋がると言われています。旺盛な知的好奇心を満たすため、本や図鑑を活用しながら、ご家庭と園双方で、丁寧に対応していきましょう。

ひまわりぐみ 5 才児



暑すぎた 8 月は戸外で遊ぶことができず、プール活動や水遊びを楽しみました。ただ楽しく遊ぶだけではなく、夫々が「次はもっと長く泳げるようにしよう」、「次はもっと長く深めに顔をつけてみよう」などと目標をもち挑戦しました。子ども達は友だちが頑張っている姿をよく見ているので、保育者よりも友だちの小さな成長に気づき、「すごーい」と大拍手で褒めてくれ、苦手でも最後まで意欲的に挑戦することができました。プール活動での友だち同士の関わり合いが自信に繋がります、思いやりの気持ちが大きく育ちました。これから運動会へ向けた活動が本格的に始まります。個人差はありますが、子ども達の吸収の速さに驚くばかりです。休息、水分補給などに十分気をつけながらプール活動での経験で高まった挑戦意欲を大切にさまざまな運動に取り組んでいきます。